

金型加工でCFRP製品化

普及へ多様な試作品

徳島県立工業技術センターが、一般的な金型加工で炭素繊維強化プラスチック(CFRP)を使った製品を作る技術の普及に力を入れている。軽く丈夫で用途の広い素材ながら、製品開発が十分進んでいないためだ。高価な専用装置がなくても容易に作れることを県内企業に周知し、CFRP製品の地場産業化を目指す。

県工技センター

簡易製法、企業に周知

工技センターによる厚さ1ミリの以下のCFRPと、CFRPの加工を専門に行う企業では、オートクレーブと呼ばれる成形装置を使う。導入に1億円ほどかかるため、中小企業では製品開発をためらうケースが少なくない。

工技センターはこの技術で携帯電話ケースや介護・医療用サポーターなどさまざまな製品を試作。CFRPの活用に必要な知識を学ぶ講座などで企業の担当者を紹介し、製品開発の参考にするよう勧められている。

工技センターはこの講座を受講した県内のある鉄工所では、携帯電話ケースをモデル

にアタッチェケースを製作している。金属部品の製造で以前から使っている金型のプレス機械を活用するため新

たな設備投資が必要なく、製品価格も抑えることができるという。試作を手掛けた工技センターの小川仁主任は、「CFRPは将来性の高い素材だが、加工が難しくコストがかかるイメージを持たれがち。これを払拭し、多くの企業がCFRPを取り扱えるよう支援したい」と話している。(久保高茂)



県立工業技術センターが試作したCFRP製品—徳島市の同センター